

# 「早急に方針決定」

## 八雲高木造校舎部分の整備で

道教育庁の  
長 藤 谷

道教育庁は、2013年度の耐力調査で構造上危険な状態にあると判断した八雲高校舎の木造部分について、早急に整備方針を決める考えだ。

9月30日の第3回定例道議会予算特別委員会第2分科会で、笹田浩氏(民主党・道民連合)の質問に谷藤大教育次長が答えた。

八雲高は本校舎(R)造、4階、延べ3630平方メートル、特別教室棟(W)造、2階、延べ1228平方メートル、産振棟(W一部)S造、2階、延べ927平方メートルがあり、それぞれ渡り廊下で結ばれてい

る。本校舎は1977年、特別教室棟と産振棟は67年に完成。特別教室棟と産振棟は外壁改修などを施している。

谷藤次長は「耐力調査の結果を基に整備方法を検討している。早急に方針を決定したい」と述べた。

笹田氏は、道立学校屋内運動場のつり天井やバスケットコートなどの落下防止対策についても質問。笹田給施設課長は、年度内につり天井を有する全ての道立学校施設で改修するほか、バスケットコートと照明器具は

14年度に総点検を終え、14・15年度で補強工事をするとした。